

海とともに
山とともに
風をつくる

田 野 畑 村 村 勢 要 覧



住みよい村づくりに向け 村民総参加で力を一つに

田野畑村長 佐々木 靖

岩手県沿岸北部に位置する田野畑村は、人口約3千人の農山漁村です。海岸部は三陸復興国立公園に指定されており、北部には、高さ200メートルほどの断崖が約8キロに渡り連なる「北山崎」があります。海のアλπストとも称される北山崎は、1999年に公益財団法人日本交通公社が行った全国観光資源評価自然資源・海岸の部で、世界に誇示できる観光資源であるとして、最高ランクの特A級に格付けされ、その絶景を訪れる人を魅了しています。また、村の南端には、弓状にえぐられた200メートルほどの断崖が、びょうぶのように5列に連なる「鶴の巣断崖」があり、秋にはきれいな紅葉を見せるなど、多くの観光客の目を楽しませていきます。

産業は、美しく豊かな自然とその恵みを生かした農漁業が中心です。水産業では、良質な養殖ワカメやコンブ、ウニ、アワビなどの海産物が水揚げされています。特に田野畑ワカメは肉厚で高品質と評されており、担い手の確保、生産や認知度の向上などを目的に、ブランド化に向けた取り組みを進めています。酪農では、広大な牧草地を利用した有機・無農薬の飼料から「たのはた牛乳」を生産しています。村産業開発公社が販売するのはた牛乳やヨーグルト、アイスクリームなどの乳製品は、村の特産品となっています。

村の沿岸部は、2011年3月に発生した東日本大震災津波により甚大な被害を受けました。震災後、村では「心をひとつに 未来に向けた復興」を目標に掲げ、村民一丸となり復興に向け取り組んできました。全国各地から多くのご支援をいただきながら、2021年9月に村が事業主体となる全ての復旧・復興事業を完了することができました。あらためて、村民の皆さまのご理解とご協力、全国からの温かいご支援に衷心より感謝申し上げます。

村の基本理念は、「参加・協働・創造」による持続可能なむらづくりです。今後も、住みよいむらづくりに向けて、村民総参加のもと、力を一つに未来へ吹く風を共につくってまいります。

田野畑村村勢要覧 目次

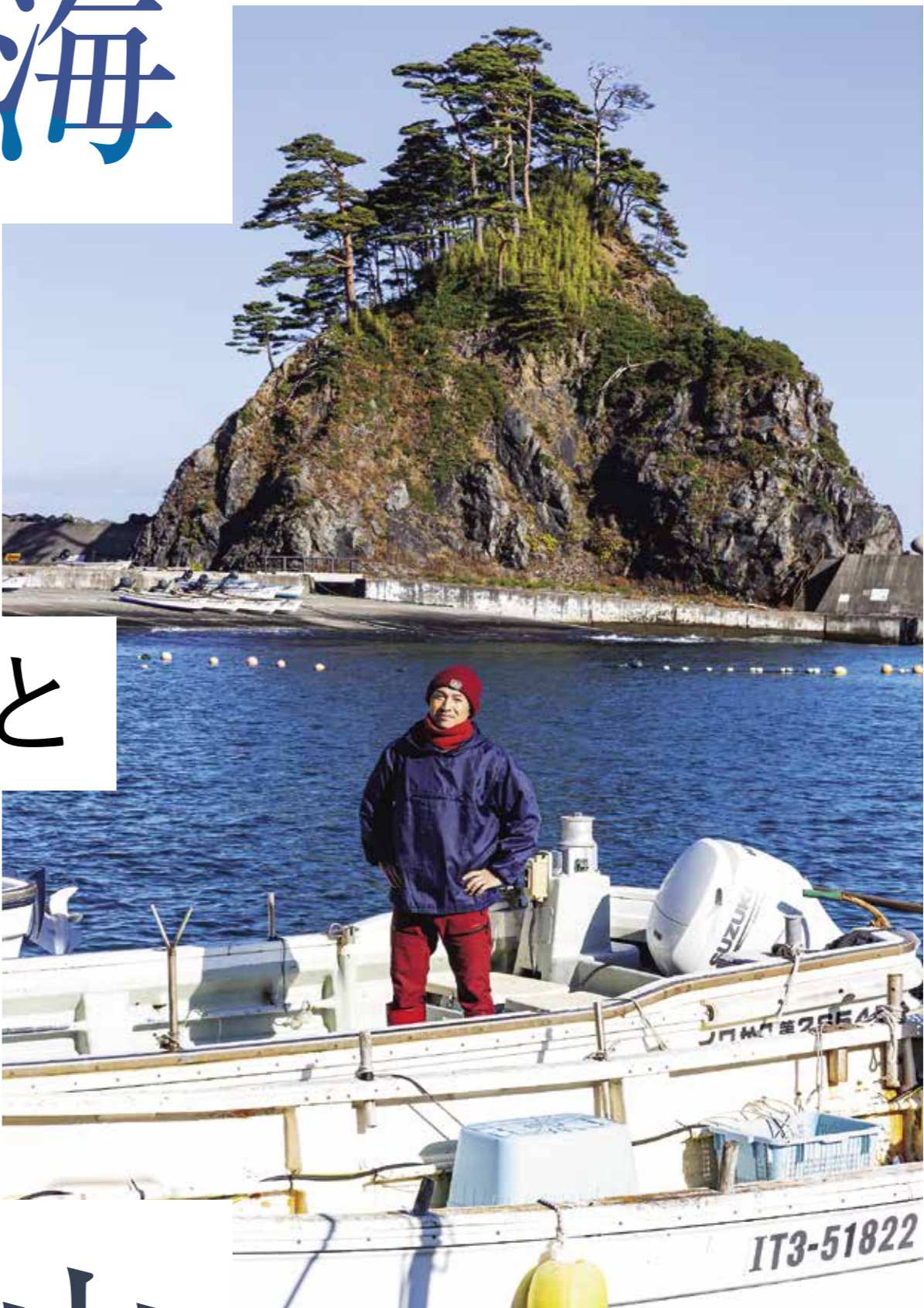
田野畑の海と山	04
人を育てる田野畑の学び	14
田野畑ですくすく育つ	18
未来に続く道	22
復興の先の新たな村へ	24
むらづくりの体系と将来像	26
田野畑村マップ	30

未来へ吹く風を共につくる

—人と自然が織りなす心豊かな協働の村—

田野畑の大地は白亜紀に誕生しました
海底が隆起してできた断崖は、自然という宝物を守る要塞
そのおかげで、田野畑の暮らしは、今も豊かな自然と共にあります
先人の知恵を受け継ぎ、海と山の恵みを生かし、みんなの力で風をつくります

海



と

山

田野畑村は、沿岸部には隆起海岸が広がり、内陸部は大部分を山林が占める自然豊かな村です。時に厳しい表情を見せる海や山は、ウニやアワビ、ワカメ、ヤマブドウ、生乳など、人々に多くの恵みをもたらし、村の産業につながっています。

海の物語

豊かな自然
共に生きる人々

生まれる貴重な生態系

ヤマセ吹く白亜紀の大地

田野畑村の大地は、長年の地殻変動によって形成された隆起海岸で、海岸線には宮古層群と呼ばれる前期白亜紀の地層が現れます。地層からはアンモナイトなどのさまざまな化石が産出され、太古の生物相を知るうえでも極めて貴重な存在となっています。

海岸線には北山崎や鵜の巣断崖に代表される標高約200メートルの台地が連なる海岸段丘が波打ち際に迫る、迫力ある風景が広がります。夏には沿岸部特有の冷たく湿気を含んだ霧「ヤマセ」が発生し、凶作の一因として人々を苦しめてきました。

一方で、天然記念物に指定されるシロバナジャクナゲやブナの巨木が自生するなど、ヤマセは貴重な生態系も育んでいます。田野畑村の人々は、この特徴的な地形や自然の生態系と共生してきた歴史があります。

海がもたらす恵み

基幹産業の一つとなっているのが漁業です。黒潮と親潮がぶつかる豊かな漁場を有しており、多様な魚種が水揚げされます。浅い海域では、ワカメやコンブなどの養殖漁業、アワビやウニ漁が盛んで、近海域では定置網・磯建網漁業が行われ、秋サケをはじめ、サバ、ワラサなどが水揚げされています。

特にもワカメは、大きな特徴を持っています。村の海には湾がないため、ワカメは外海の荒波にさらされ、大きな河



大地に刻まれた太古の地層が姿を現すハイベ海岸



北山崎に群生するシロバナジャクナゲ



ニホンカモシカなど豊かな生態系が見られる

川が流入しないことから低い海水温で生育します。こうした厳しい環境の中で育ったワカメは、大きく、肉厚で歯ごたえの良さが自慢です。

国内で養殖されるワカメのほとんどが交配種を他の地域から購入して育てられている一方、村産のワカメは天然採種ものを養殖に使用します。昔から地域に根付いてきた原種のワカメが、現在も脈々と受け継がれているのです。村では、村産ワカメの知名度の向上や生産者の収入増加を図るため、ブランド化の取り組みに力を入れています。



ワカメをはじめ、豊富な海産物が育つ田野畑村の海

引き継がれる 田野畑ワカメへの思い ブランド化へ 新たな取り組み始まる

高品質のワカメを守り育てる

田野畑ワカメは、厳しい自然と向き合い、良質なものを届けようと努力してきた漁師によって守り育てられてきました。島越養殖組合の三浦太知組合長もそんなワカメ生産者の一人です。実家は代々、定置網やワカメ、コンブなどの漁師。「このワカメを食べると、ほかのものを食べることができないと言われる」。高い評価を受ける田野畑ワカメをなくしたくないとの思いで、震災後にワカメ漁業をやめようと考えていた父親の後を継ぎました。

村のワカメ生産は、7月後半に天然の芽株を採ってくるころから作業が始まります。2、3日陰干しをした芽株から出た胞子をロープに付け、沖に設置。余分な海藻が付かないようにロープを掃除しながら成長具合を確認し、種苗糸にワカメの幼葉が育った11月ころに養殖の施設に種苗糸を巻き込む作業を行います。間引き作業を経て、3月中旬から収穫作業が本格化し、4月いっぱいまで続きます。

天然の芽株から育てるこだわり

村のワカメ生産者は、天然の芽株から胞子を採って育てた1世を中心に、最大でも2世までしか使用しないように決めています。間引きの際には成長がいいものを残すため、世代を重ねていくことでワカメ自体は大きくなる傾向にありますが、病害虫に弱く、天然に近い品質を確保するためにも2世までにこだわります。



わずかに育ったワカメの幼葉

ブランド化に必要な生産量の安定

高品質を誇る村のワカメですが、ブランド化していくためには、生産量を安定させる必要があります。ワカメ生産者の減少や高齢化が進む中、新たな生産者

を増やすことはハードルが高いため、一人当たりが生産する量を増やしていくことが安定化に向けた近道です。いかに労力軽減や作業の効率化を図っていくかが喫緊の課題となっています。このような課題の解決に向けて村では、2022年9月にワカメ生産者や漁協女性部、村関係者らで組織する田野畑ワカメブランド化推進協議会を立ち上げました。最初の取り組みとして、1次加工場の整備を計画しています。

希少価値を高める取り組みも大切に

田野畑ワカメ自体の希少価値を高める取り組みにも力を入れていきます。田野畑ワカメブランド化推進協議会の委員も務める三浦さんは「希少価値を高めるにはおいしいだけではだめだと思えます。栄養素やおいしさ、味などを数値化することで他の産地との差別化を図っていくことも必要です」と今後の展望を語ります。



立派に育つことを願って船上で作業を進める三浦太知さん



荒波にもまれて育った田野畑ワカメは肉厚で柔らかい



良質な田野畑ワカメを届けるため日々奮闘している生産者

地域の宝から世界の宝へ 環境や遺伝的な要因で 独自のワカメに

住民が価値を
再認識することも大切に

田野畑ワカメのブランド化に向けた動きが2022年に本格的にスタートしました。ブランド力を高めるためには品質にこだわることはもちろん、地域の人たちがたくさんの特徴を持つ田野畑ワカメの価値を再認識し、誇りを感じることが大切なことです。元岩手県首席水産業改良普及員の石川豊^{ゆたか}さんは、2020年に村地域おこし協力隊に就任。小中学校での授業を通じたワカメの啓発活動、陸上での養殖用ワカメ種苗の生産などに取り組んでいます。

多種の海藻が採れる珍しい地域

田野畑村は、コンブ、マツモ、ヒジキ、テングサなど10種類以上の食用海藻が採れる世界的にも珍しい地域といわれています。その中の一つに、ワカメがあります。日本人になじみの深いワカメですが、地球規模で見ると極東だけにしか分布していない海藻です。

ワカメの基本品種は、日本各地にあるワカメ、瀬戸内海などにあるナルトワカメ、岩手県や宮城県にあるナンブワカメの3種類に分かれます。ナンブワカメは、岩手ワカメ、宮城ワカメの地方品種に分類され、岩手ワカメはさら

に田野畑、宮古市重茂地区、野田村など地域品種に分かれます。

さまざまな特徴を持つ田野畑ワカメ

生息する環境や遺伝的要素によって、ワカメの特徴は異なります。田野畑ワカメの特徴は、茎が異様に長く、1枚1枚の葉は細く、それでいて肉厚なことです。葉の厚みは、一般的なワカメが0.2〜0.3ミリに対して、田野畑ワカメは0.5ミリ以上になります。全体の大きさも一般的なワカメが2〜3メートルに対して、田野畑ワカメは3〜5メートルになり、記録上の最大のものも島越地区で16メートルのものがあります。非常に大きくなる個体なので、成長するスピードも速く、一般的なワカメが1日1〜2センチに対して、田野畑ワカメは1日3〜4センチも育ちます。

サイズは個体ごとに違いますが、コピーをしたように均一の形になるのも特徴です。加工工程は、ワカメの個体によって変えることはないため、均一な形であればあるほどむらの少ない上等なワカメが1日1〜2センチに対して、田野畑ワカメは1日3〜4センチも育ちます。



茎の長さや葉の細さなどの特徴を持つ田野畑ワカメ

学名:ウナダリア・ピンナティフィダ
ウナダリアは「波」、ピンナティフィダは「羽状毛」を指すラテン語。海中の様子から、波に漂うインディアンの酋長の帽子を意味している。

遺伝学的に守られた 独自の系統

田野畑村を含む海域は、他地域からワカメの種を入れたことがありません。

世界的に見ても原種で養殖しているのは、ごく限られた地域だけです。ワカメは10〜20度の水温で養殖するのが一般

的ですが、田野畑ワカメは3〜14度と非常に冷たい環境で育ちます。そのため、南からワカメを持ってきてもうまく育ちません。生産者が原種にこだわって

養殖していることも特徴です。石川さんは「田野畑ワカメは生物学的に見てもたくさんの特徴があり、養殖学的に見ても原種しか使わないため、極めて独自の位置にあります。遺伝学的に守られてきた独自の系統で、希少な海域で育ったものです。それを地域の方々に認識してもらおうことが自分の役割」と話し、活動しています。宝の価値を地域が知ることから、ブランド化の一歩が始まります。

産物・加工品が並ぶ村の魅力伝える拠点

道の駅たのはた 思惟の風

道の駅たのはた 思惟の風は、地域振興の拠点施設として2021年4月にグランドオープンしました。村民や観光客の交流拠点のほか、村の特産品や観光情報などの発信拠点となっています。



産直施設には、田野畑ワカメ、ウニをはじめとした海産物、ヤマブドウなどを使った加工品、田野畑村産業開発公社の乳製品、山地酪農牛乳など、村内のさまざまな特産品が並びます。若布そば、若布を美味しく食すためのたれなど田野畑ワカメのPRにつながる商品、村内に自生するクロモジを使ったお茶など、道の駅として地域の魅力を伝えるオリジナル商品の開発にも積極的に取り組んでいます。



三陸沿岸道路と道の駅を結ぶ新たなインターチェンジの整備構想もあり、利便性の向上によるさらなる交流人口の拡大、防災拠点機能としての役割も期待されています。

1. 若布そばや美味しく食すためのたれなど田野畑ワカメの消費につながる商品も
2. 村産のクロモジを使用したクラフトコーラ
3. 田野畑ワカメをふんだんに使った煎餅



観光や交流の拠点となっている道の駅たのはた 思惟の風



県産材を使った温かい雰囲気館内には地域の特産品などが並ぶ



田野畑ワカメのブランド化に向けて立ち上げた協議会



ワカメの種苗について石川豊さんの話を聞く田野畑中学校の生徒

山の物語



田野畑の自然の中でのびのびと暮らす牛たち

豊かな自然が育む
山の恵み

給食提供が村の牛乳生産の原点
村の産物生かした加工品も魅力

田野畑村は、海の恵みとともに、広大な森林と北上山地に囲まれた地形を生かした酪農や農業も盛んです。夏でも涼しい快適な飼育環境が、暑さに弱い乳牛の飼育に適しています。粗飼料の多くが自前の牧草を使用していることも村の酪農の特徴で、牛たちはストレスなく良質な乳を出してくれます。

村で牛乳の製造販売が始まったのは昭和40年代。脱脂粉乳や混合乳による乳製品も製造しています。たのはたプレーンヨーグルトは、ご当地ヨーグルトを集めた全国ヨーグルトサミットの第3回大会のヨーグルト党総選挙・ム党(無糖)部門で第3位に入選するなど、全国的にも高い評価を得ています。

また、村産のヤマブドウを使用したワインやジュースなども販売しています。広大な山林を誇る村の自然を生かして栽培されたヤマブドウ。ジュースやワインには、樹上で完熟させた糖度の高いヤマブドウを使うため、甘みと酸味のバランスが良いのが特徴です。

こだわりの放牧が生む味
全国にファンが広がった山地酪農

村には、年間を通じて広大な牧野に牛を放し育てる山地酪農に取り組んでいる酪農家がいいます。牛たちは二ホンシバを中心に四季折々に豊富な野草を食べて育つため、一頭当たりの乳量は少ないものの、健康で長い期間にわたって搾乳ができます。採れた生乳は山地酪農牛乳として販売されているほか、チーズやヨーグルトにも加工されます。甘みと濃厚さがありながら、後味がすっきりとした特徴を持ち、全国に多くのファンがいます。



学校給食で提供される牛乳は子どもたちにも人気



豊かな自然に囲まれた田野畑村の牧草地、遠くには海が見える



昭和40年代当時の牛乳瓶

給食が続く中、子どもたちに生乳100%の牛乳を飲ませたいという思いからでした。1979年からは村産業開発公社による牛乳の製造が始まりました。これが、現在のたのはた牛乳です。酪農家の規模拡大などで村内の生乳出荷量は年々増加し、1992年のピーク時には約5740トンありました。その後、酪農家の減少や消費低迷などで一時落ち込んだものの、新規の大規模事業者参入もあり、現在は5510トンになっています。

たのはた牛乳の特徴として殺菌方法があります。現在、市販されている牛乳の多くは120〜150度で1〜3秒間の加熱殺菌をする超高温瞬間殺菌ですが、たのはた牛乳は、生乳本来の味を生かすため85度で25分間殺菌する方法を取り入れています。良質でおいしい牛乳は、現在も村内外の小中学校の給食で提供されています。

村産業開発公社では、牛乳のほか、ヨーグルト、アイス、ゼラートなどの



新鮮な生乳を使って作られた牛乳やヨーグルト



牛乳・乳製品を製造・販売している田野畑村産業開発公社



村産のヤマブドウを使ったワインやジュースも人気の商品



田野畑村の自然の中で山地酪農に取り組む熊谷宗矩さん

田野畑村の地形と気候を生かした山地酪農

自由に牧野を歩き、草を食べる牛たち

木立に覆われた林道を進んでいくと、目の前に開けた急傾斜地が広がります。田代地区の熊谷宗矩さんが経営する山地酪農「くがねの牧」の放牧地です。遠くに海が見える丘の上で、30頭ほどの牛の群れが横になり体を休めています。熊谷さんが近づいていくと、牛たちがゆつくりと体を起こし、草や落ち葉などを食べ始めます。

冷涼な環境は牛にも快適

田野畑村の山地酪農は、1973年に熊谷さんの父親が自宅の裏山を柵で囲って成牛約20頭を放牧したのが始まりです。大学を終えた熊谷さんも1998年に就農し、手伝い始めました。現在は、約30ヘクタールの放牧地でホルスタイン種の成牛約30頭を育てています。村は、夏場もヤマセが入ることで涼しい日が多く、牛にとっては過ごしやすい環境です。

山地酪農は、急傾斜地を牛の力を借りて草刈りしていきます。最初こそ人間の手で山林を切り開き、芝を植え

ますが、徐々に芝が密集し、5〜10年で表土を覆うようになります。林だった場所も牛が踏み分け、光が入るようになることで自然と草地に変わります。耕作地には向かない条件の悪い場所が牛乳や肉など食料の生産現場になり、牛たち自らの活躍で牧野が維持されていきます。

四季で変化する牛乳の味

くがねの牧では、牛たちは積雪期と朝夕の搾乳時以外は放牧されています。起伏がある場所を移動しながら草を食べる牛たちは足の筋肉が付き、内臓も丈夫になります。

熊谷さんは「草を中心に食べさせている山地酪農の牛乳はコクがあって、それでいて後味がさっぱりしている」と話します。一般的な酪農は年間を通じて穀物や飼料を与えますが、山地酪農では牛が食べる草の種類が季節によって異なり、秋には落ち葉なども食べるため、四季で味が変化するのも特徴です。

計画的な生産で少ない乳量をカバー

年間の乳量は一般的な酪農が1頭当たり8千〜9千キロに対して、山地酪農の場合は4千〜5千キロと半分程度しかありません。牛への負担が少ないた

め健康で長く搾乳でき、種付けやお産が計画的にできることで、乳量が少ない分をカバーできるといいます。

1996年には田野畑山地酪農牛乳が発足。独自の生産者規定を設け、吉塚公雄さんが営む「志ろがねの牧」と

熊谷さんの牛乳を山地酪農牛乳として、消費者に届けられるようになりました。2009年に株式会社となり、2017年には乳製品工房も完成し、チーズやヨーグルトなどの加工品も提供できる体制ができました。



農業などに活用が難しい急傾斜地も山地酪農では食料を生む現場となる



県内トップクラスの生産量を誇るブロッコリーなど野菜栽培も盛んな田野畑村

村の気象や地域特性がたくさんの野菜を育てる

インフラも産地形成を後押し

田野畑村は、ダイコンやミツバなどの露地野菜、菌床シイタケなどの施設野菜の栽培が盛んな地域です。特にブロッコリーは、国際基準となるグローバルギャップの承認を受けるなど生産者の意欲も高まり、県内でもトップクラスの生産量を誇ります。漁業が盛んな地域ということで鮮度を保つための低温輸送用水

の調達が容易という利点も産地形成につながっています。

菌床シイタケの栽培は村の気候を生かした産業の一つです。気温だけでなく、湿度や換気量が重要になる菌床シイタケ栽培。年間を通して涼しく、適度な水分を含んだ風が吹く恵まれた環境が、立派で味の良いシイタケを育てています。

三陸沿岸道路などのインフラ整備によつて、主要な消費地である盛岡市や仙台市などへの輸送時間が短縮されたことも鮮度が大切な野菜の生産を後押ししています。

人を育てる

田野畑の学び

— 教育が地域をつくる —

田野畑村は、進んで学び、心豊かた
くましい子どもを育成します。子ども
たちがさまざまな体験を通して、ふる
さとに誇りと愛着を持った人間性豊か
な人材へと育つことで、地域の未来に
つながっていきます。



授業を通して田野畑村に豊かな海産物があることを学びます

田野畑学

体験を通して芽生える村への愛着

村は、小中学校それぞれ1校の利点
を生かし、9年間を見通した小中連携
教育に取り組んでいます。村の自然・
人・文化の良さを豊かな体験活動を通
して学ぶ「田野畑学」を研究・実践し、
一人一人が村への愛着と誇りを持ち、そ
れぞれの人間形成や自己実現につなげ
ていくことができるように学習を進め
ています。

漁業や林業、観光など地域の産業の
体験、地域資源を活用した製品づくり

た。

社名は、「船のかじ取りをする集団」
の意味を持つ Community of
Making Rudder から付けら
れ、生徒自らが郷土・田野畑の未来を
拓いていくとの思いが込められていま
す。三閉伊一揆で発頭人が掲げた旗印
「小〇(こまる)」にも由来し、農民一揆
史に輝く偉業を成し遂げた先人の継承
者としての誇りを表しています。

生徒は1年生の森林学習、2年生の
水産学習など、地域の人から村の産業
について学ぶ機会を持ちます。村にた



中学生も村をPRする立派な社員



村の資源を生かして商品を作る田野畑中の生徒



アワビの貝殻や村の木などを使った商品



地域の産業に触れる機会がたくさんある田野畑村の子どもたち

による地域のPRなど、さまざまな機会
に、村の魅力や現状を再認識します。
子どもたちは授業だけでなく、地域コ
ミュニティ、スポーツ、文化、伝統芸能
など、多様な地域活動に携わる中での
社会性を育み、地域に貢献する人材に
育っていきます。

学校と地域住民などが力を合わせて
学校運営に取り組む小中一体型の学校
運営協議会「コミュニティ・スクール」も
導入。教育振興運動、地域学校協働
活動など、学校・家庭・地域が目指す
べき目標やビジョンを共有することで、
村を挙げて子どもたちの学びをサポート
していきます。

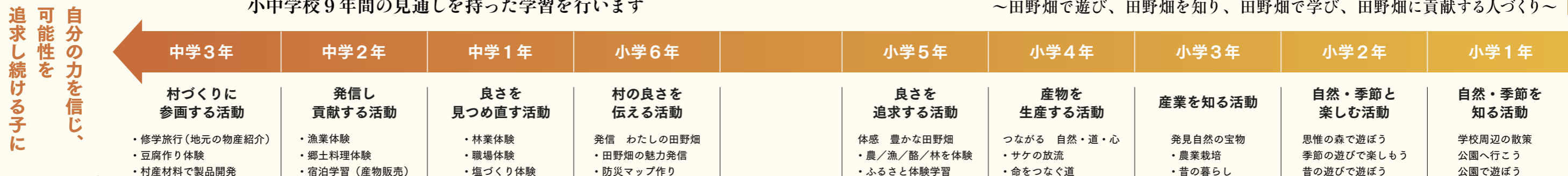
くさんの資源があることを学んだ生徒
は、総合的な学習の時間に広報、開発、
制作、木工、デザインなどのグループに
分かれて、オリジナルの商品を制作し
ます。

制作したアワビ細工、木工製品、布製
品などの商品は道の駅たのはたで販売
しているほか、生徒自らが商品を販売す
る機会もあり、お客さまから掛けられ
る言葉がやりがいにつながっています。商
品制作だけでなく、会社ホームページな
どを通じて活動や村の魅力の情報発信
にも積極的に取り組んでいます。

田野畑学のイメージ

～田野畑で遊び、田野畑を知り、田野畑で学び、田野畑に貢献する人づくり～

田野畑の人・もの・ことを教材として、
小中学校9年間の見通しを持った学習を行います





森づくりを通して村と交流が続く早稲田大学の思惟の森の会



村での活動拠点となっている青鹿寮

早稲田大学との森づくり

村民と学生の交流

村と早稲田大学とのつながりは、半世紀以上の歴史を持ちます。きっかけは、1960年12月、早稲田大学商学部の小田泰市助教授(当時・故人)が、村出身の学生がいたため、ゼミの農村体験の場所として村を訪問したことに始まります。

翌年の1961年5月、三陸フェニ

火災が村を襲い、多くの山林が焼失しました。小田助教授は森林の再生のための植林活動へ学生を参加させました。村の人や自然と触れることで学生が成長してくれるとの思いからでした。

1965年に田野畑村長になった早野仙平氏は地域の発展には教育が一番重要であると考え、教育立村構想を立ち上げます。この思いは小田助教授の思惟の森構想とも合致し、村と早稲田大学はさらに連携を深めていくこととなりました。現在も、村内の宿泊研修施設「青鹿寮」を拠点に、早稲田大学のサークル「思惟の森の会」が合宿をしながら育林活動や村民との交流を行っています。



躍動感あふれる動きの甲地鹿踊



鹿に見立てた頭が特徴的な菅窪鹿踊



人々の健康や厄払いの願いを込め舞われる大宮神楽

郷土芸能

若い力が伝統を受け継ぐ

村には、大宮神楽、菅窪鹿踊、甲地鹿踊など、古くから地域に伝わる芸能があります。後継者不足などが課題となる中で、子どもたちが貴重な担い手になっています。地域の伝統を受け継ぎ、生き生きと舞う子どもたちの姿を祭りの機会などで見ることができます。

〈菅窪鹿踊〉

武甕槌ノ尊(たけぬかつちのみこと)が降り立ったとき、先住民が野に放った火を無数の鹿が水に入って体を濡らして消し止め、これに感銘したことから創始されたといわれています。鹿踊と剣舞がすばやく交互に入れ替わりながら舞うのが特徴。鹿に見立てた頭をかぶり、勇壮な動きで舞う姿は感動的です。1988年に県無形民俗文化財に指定されています。

〈大宮神楽〉

霊場で舞を演じたという山伏神楽に由来します。人々の健康を祝福し、厄を祓う願いが込められたこの神楽は、かつては正月、6月の例祭に大宮神社で舞われ、村内を巡業して舞が繰り広げられました。現在は依頼に応じた昼神楽が中心です。多くの演目があり、古い形態を保ち、極めて貴重であることから1993年に県無形民俗文化財に指定されています。

〈甲地鹿踊〉

甲地地区で継承されている勇壮華麗な伝統舞踊で、躍動感あふれる動きが特徴です。幕を持って舞う鹿踊りとしては北限といわれています。お盆や法事などのときに精霊を慰める踊り、祭礼の行事などとして古くから演じられてきました。鹿踊りのほか、剣舞や大念仏踊りなどの演目が伝承されています。1981年に村が無形民俗文化財に指定されています。



地域連携ワークショップで田野畑村で住民から直接話を聞く早稲田大生

地域課題解決に新たな視点

早稲田大学の学生が村の地域課題の解決策を考える実践型の地域連携ワークショップも行われています。学生が課題に対する仮説を立て、村を訪れて自治体関係者や地域住民から直接話を聞き、地域の実情を知ったうえで解決策を提案。実践的な学習は、学生の成長につながるほか、村にとっても新たな視点で課題の解決を探ることにつながっています。

田野畑で

すくすく

育つ



世界的に少子化が進む中、未来に向け、地域社会全体で子ども・子育てを支援する取り組みを行ってきました。子育て世代の不安や負担を減らし、安心して楽しく子どもを育てられるように、さまざまなサポート体制を用意しています。子どもたちの保育料や医療費、給食費の無料化などに加え、出産を祝う「エンゼル祝金」も新設しました。無料通信アプリLINEを使っての子育て相談やイベントなどの情報発信も始めています。村の制度の利用者で、現在4人の子どもを育てる山根さん一家を訪ね、田野畑村の子育てのお話を少し聞いてみました。そこには、元気な笑顔が輝いていました。

笑顔あふれる4きょうだいにぎやかな村での暮らし

住宅の庭先に思い思いに遊ぶ子どもたちの元気な声が響きます。羅賀地区の山根さん一家は、雄斗さん、美里さん夫婦、長男の楓雅君、長女の海音さん、次男の想貴君、三男の朱陽君の6人家族。子どもたちそれぞれが家族の中で役割を担い、にぎやかに村での暮らしを楽しんでいます。

家族が仲良く過ごすことを大切にしている一家。漁協で働く雄斗さんは早朝からの勤務も多く、海音さんは所属するバレーのスポーツ少年団で夜の練習があるため、全員一緒に食卓を囲む日は限られますが、子どもたちは学校や保育園でその日何があったか積極的に話してくれます。お皿洗いやお風呂掃除、小さい子の面倒をみることなど、共働き夫婦を子どもたちもお手伝いで支えます。

ヤギのいる道の駅たのはた、思惟大橋コミュニティ公園などが家族で出掛けのお気に入りの場所です。

一方、子ども用品などを購入できる商店は村内には少ないため、買い物をする場所は村外の量販店が多くなります。三陸沿岸道路を利用すると宮古市や久慈市まで近いため、子育ての環境に不便さを感じていません。



羅賀地区の山根さん一家 前列左から次男の想貴君、長女の海音さん、長男の楓雅君、三男の朱陽君、美里さん、後列が雄斗さん

村の制度を利用して子育て充実

田野畑村の年間出生数は、2018年度から10人前後で推移しています。これからの時代を担う子どもたちは、村の宝です。結婚、出産、子育てが安心してできる環境をつくっていくため、村は保育料の無料化、医療費助成制度の拡充など、さまざまな施策に取り組んでいます。

すでに卒園した楓雅君、海音さんを含め、4人とも村内の保育園に入園しました。母親から保育料の負担は大きいと言われていた美里さん。田野畑村に嫁いでくるまでは、保育料無料の制度があることは知りませんでした。「共働きなので、保育料が無料なことは本当に大きかったです。子どもが小さいうちから保育園に預けて仕事に復帰でき、とても助かりました」と子育てしやすい環境に感謝します。

子どもたちが地域の伝統芸能に親しむ

村内には、小学校、中学校が各1校ずつ。児童生徒は、各地域からスクールバスなどで通学しています。楓雅君、海音さんも、スクールバスで約15分かけて田野畑小学校に通います。雄斗さんは「各地区に学校があると人数はどうしても少なくなります。1校だとその

田野畑村の子育て支援

田野畑村で安心して楽しく子どもを育てられるように「自然と人の絆が育む 田野畑の子どもたち」を基本理念に、「第2期 田野畑村子ども・子育て支援事業計画」を策定し、令和2年度から5か年計画で次の4つの基本目標をかかげ、子どもや子育て支援に関する取り組みを進めています。

1. 教育・保育サービスの充実

2. 支援の必要な家庭への取り組みの推進

3. 地域における子育て支援の充実

4. ワーク・ライフ・バランスの推進

この計画はアンケートやヒアリング調査を重ね、当事者等（保護者、教育・保育従事者、福祉関係者等）を委員として構成する、「田野畑村子ども・子育て会議」を開催し、内容について審議して決定しました。村ではリアルな声を基に、さまざまな支援を続けています。



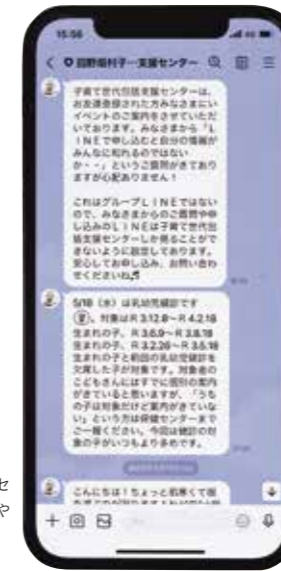
子育て世代包括支援センターが開催する行事が子どもたちの貴重な交流の場になっている

分、人数が集まり、人と触れ合うことが多くなるのでいいこと」と感じています。羅賀地区の子どもは、小学生になると地域の伝統芸能である大宮神楽に参加します。地区のお祭りなどで披露する演目「綾遊び」を上級生や保存会員が指導。練習は月に1、2回で、楓雅君、海音さんも練習に汗を流し、地域のひととの絆がより深まりました。子どもたち

ちにとつて、神楽を舞うことは憧れでもあります。就学前の想貴君も保存会に所属する美里さんの練習に付いていき、帰宅後はお面を着けて見よう見まねで神楽を踊ります。

親子交流の機会や気軽な相談体制

震災以降、高台移転などで地域を離れる家族もあり、羅賀地区では子どもの数が減っています。村子育て世代



子育て世代包括支援センターから届く健診やイベントのお知らせ

包括支援センターでは、季節の遊びや子育てスキルアップ講座をしています。「私たちの家族はまだきょうだいが多いので遊ぶことができますが、地域に同じ年代の子どもがいないので、一緒に集まって遊ぶ機会は貴重です」と美里さんは話します。

村子育て世代包括支援センターが2022年から導入した公式LINEのサービスも活用しています。保護者と

山根さん一家が使う支援

- 医療費助成
高校生以下の子どもが対象。定期予防接種、任意接種(おたふく風邪)を村内で受ける場合は無料。インフルエンザの予防接種も村内で受ける場合は全世代無料。
- 保育料無料
- 入学・卒業時の祝い金交付
- 小中学生の給食費無料化
- 子育て世代包括支援センター

センターがLINEでつながることで、健診やイベントのお知らせが届くほか、子育ての悩み、子どもの健康、栄養相談が気軽にできます。LINEは電話では伝えにくいことも画像で送ることができます。相談には、保健師、管理栄養士、看護師が細やかにアドバイスします。

美里さんは「なかなか相談の電話はかけづらくてもLINEだと相談でき、すぐに回答してもらえます。子どもが多いとみんなを連れて相談に行くわけにもいかなないので助かります」と話します。

保育園を通して、健診やイベントのお便りは届きますが、募集定員に達していないものへの誘いやイベント自体を忘れていたケースもあり、「開催日近くにLINEで通知が届くのは保護者としては便利なサービスです」と言います。



高校生 18歳

● 扶養手当支給事業

親と生計を同じくしていない児童を養育している家庭、精神や身体に障がいのある児童を育てている家庭、経済的理由で就学が困難な児童生徒の保護者に対して、手当の支給と必要な援助を行います。

0歳 出産

● 妊婦健診料補助・不妊治療費助成

妊婦一般健診費用を助成しています(14回まで)。また、田野畑村歯科診療所で歯科健診を受診する場合は無料となります(1回のみ)。不妊治療を行っている夫婦に対しては、治療費の一部を助成します。

● エンゼル祝金の支給

出産を祝い、次世代を担う子どもの健やかな成長を願って、エンゼル祝金30万円を支給します(村への転入から1年以上上居住し、支給後も1年以上の居住が必要)。

● 保育料無料

村内の保育施設では、保育料の無料化を実施しています(食費を除く)。

3歳 保育園

6歳 小学校

● 入学・卒業時の祝い金交付

小学校入学、中学校入学、中学校卒業の際に保護者に対して、祝金を支給します。

● 小中学生の給食費無料化

令和4年度から児童生徒の学校給食費を無料化しています。

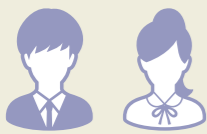
● 修学旅行費用の一部助成

村内の小中学校に対し、修学旅行費用の一部を助成しています。

13歳 中学校

● 医療費助成

高校生以下の子どもの医療費を無料化しています(一時負担・申請後に支給の場合あり)。その他、妊産婦(妊娠5か月目から出産の翌月末日)、18歳までの子どもを扶養しているひとり親家庭も医療費助成を受けることが可能です。インフルエンザの予防接種は村内で受ける場合は全世代が無料となります。



妊娠期から子育て期までのワンストップ窓口 子育て世代包括支援センター

子育て相談、情報の発信、子育て講座の開催、家庭訪問など、妊婦、乳児から18歳までの人とその保護者に切れ目のない支援を行っています。

タノハタ
×
ミライ

インフラ

未来に続く道

生活向上に欠かせぬ橋、鉄道、道路

海と海岸段丘に囲まれた特徴的な地形の田野畑村。深い谷に架かる橋や三陸鉄道、三陸沿岸道路など、インフラの発展によって人やモノの交流が盛んになってきた歴史があります。



観光や村民の生活に欠かせない三陸鉄道



仙台市から八戸市まで全線開通した三陸沿岸道路

時代の変遷 物語る橋

村の厳しい地形を表すときに、必ず出てくる話があります。その昔、赴任してきた役人や教師があまりの道の厳しさに引き返そうかと思案したという思案坂、その先に待ち受けるさらに深く大きい谷に職を投げ出して帰ってしまつたという辞職坂です。

思案坂には1965年に横木沢橋、2006年に思案坂大橋が、辞職坂には1984年に思惟大橋が架けられました。2021年には、三陸沿岸道路の開通により、最大橋脚高93メートルの思惟花笑み大橋が供用開始となりました。

急峻なV字型の溪谷に架かる横木沢橋、思案坂大橋、思惟大橋、思惟花笑み大橋は、道路交通基盤の整備によって人々の生活が大きく変わっていったことを物語る風景にもなっています。

震災乗り越え つながる鉄路

三陸鉄道
1984年4月1日、三陸鉄道が

迅速で安定した救急搬送や輸送の効率化による地域産業の振興、観光振興などの効果が期待されます。

現代生活支える 情報網の普及

通信網

住民の利便性向上、地域課題の解決のため、移动通信用鉄塔の整備に努め、2011年には村内のほぼ全域で携帯電話の通話が可能となりました。現代生活に欠かせないインターネット環境の構築に向けた光回線の整備を進め、2016年度からは村内全域で超高速ブロードバンドサービスが利用できるようになりました。

利便性向上へ 二つの住民の足

公共交通

2010年度の小学校統合を機に、児童生徒の通学に合わせ一般の方も無料で利用可能な総合バス「タノくんバス」の運行を開始しています。2009年10月からは従来の村民バスに替わり、予約運行交通「くるもん号」の運行を開始。通院などに配慮して自宅まで迎えに来るなど、村民の足の確保と利便性の向上に努めています。

開業しました。村内にも田野畑駅、鳥越駅が新設され、村民が待ち望んだ鉄路の開通を喜びました。地域の生活の足としてのみならず、風光明媚な海沿いを走る路線は、夏場はもちろん、冬場のこたつ列車の運行など、年間を通して村内に多くの観光客を迎えるためにも欠かせない交通機関となっています。

2011年3月11日に発生した東日本大震災で駅や高架橋が流出するなど大きな被害を受けました。早期の開通が望まれる中、不通になっていた田野畑駅と陸中野田駅間の運行が2012年4月1日に再開。田野畑駅と小本駅間も2014年4月6日に運行再開され、震災から1122日、三陸鉄道北リアス線は念願の全線復旧を迎えました。

沿岸部を結ぶ 復興の道

三陸沿岸道路

東日本大震災の復興道路として国が整備を進めてきた三陸沿岸道路。2021年7月、田野畑南と尾肝要の延長6キロが開通し、村内区間の全線が開通しました。同年12月には久慈と普代間が完成し、青森県八戸市から宮城県仙台市まで359キロが一本の道路で結ばれました。開通によって、

タノハタ
×
ミライ

復興防災

復興の先の新たな村へ

後世に伝える震災の記憶、教訓、交流

1896年の明治三陸大津波、1933年の昭和
三陸大津波、2011年3月11日に発生した東日本
大震災津波。田野畑村は、長い歴史の中で幾度も自
然災害に襲われています。人々は、災害の教訓を糧
に防災へ取り組み、復興の歩みを進めてきました。

心ひとつに

未来に向けた復興

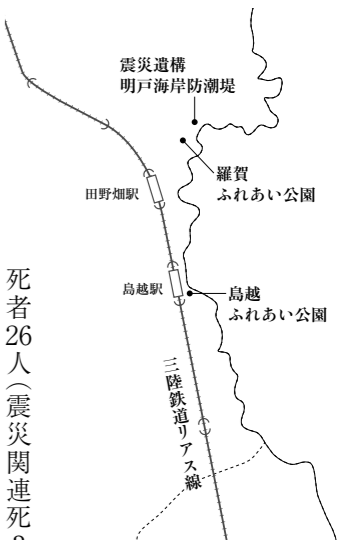
東日本大震災津波で、田野畑村では

死者26人(震災関連死3人含む)、行
方不明者15人、家屋倒壊数281棟
の被害が発生しました。魚市場やサケ
孵化場などの水産施設、漁船、養殖
施設なども被害を受け、被害総額は
191億円にのぼりました。
村では「心をひとつに 未来に向けた
復興」を目標に掲げ、被災前の状態に
戻すという単なる復旧ではなく、被災
地を含めさらに魅力ある村に生まれ変
わる「未来に向けた復興」という視点で
復興に取り組んできました。

復興事業にあたっては、地域コミュニ
ティの再生や被災地の土地活用など
「防災の地域づくり」、住宅の再建や保
健・医療・福祉の充実など「生活再
建」、雇用の場の創出や教育・人材育
成の充実など「地域振興」の三つの基本
方針に基づき、村民一体となって歩み
を進めてきました。

全国各地からの支援と村民の協力によ
り、村が事業主体となる復旧・復興事
業は2021年に完了しました。今後
は、震災の教訓を後世に伝えられると
もに、さらなる防災に努めていきます。

残された遺構から津波の惨状が分かる島越ふれあい公園



復興支援を機に深まる自治体の交流

埼玉県深谷市、青森県藤崎町

2006年3月5日に友好都市を締
結した埼玉県深谷市から東日本大震災
の直後、いち早く多くの支援物資が届
きました。その後も義援金や職員派遣
など、復興に向けて物心両面で支えて
いただきました。

両市村のつながりは古く、川本町(現
深谷市)で生まれた鎌倉時代の武将、
畠山重忠公が義経討伐に差し向けられ
た際、愛馬が脚を折って倒れ、村に鐘
を埋めたといわれていることが縁です。

1997年2月11日に友好町村を締
結。2006年に合併で新しい深谷市
となった後も児童同士の交流などが続
いています。

青森県藤崎町との交流は、東日本大
震災を機に始まりました。村の子ども
たちが精神的に不安を感じていると案じ
た藤崎町の教育長が、村の教育長を介
して田野畑小学校の児童を町へ招待。こ
れが縁となり、2015年4月29日に
友好都市を締結しました。

2012年から始まった隔年での児
童の交流は震災10年を機に終了しまし
たが、産業まつりへの物産の出店など友
好関係が続いています。



田野畑村を訪れ、体験活動を行う藤崎町の児童



児童同士の交流が行われている深谷市と田野畑村



災害に備えて水門閉鎖などが行われる総合防災訓練

日頃の備えが防災意識向上へ

村では危険箇所や避難ルートを確認
できるよう、想定される災害、地区ご
との津波、河川浸水予想区域、土砂
災害警戒区域などを掲載した総合防災
ハザードマップを作成。災害や行政情
報など防災無線の放送内容を登録者に

配信するタノくんメールも行っていま
す。総合防災訓練では、消防団員によ
る避難誘導や水門閉鎖、沿岸地区の住
民による避難経路確認などを実施し、
日ごろからの備えの大切さを再確認する
機会としています。



次世代へ震災の記憶を伝承する明戸海岸防潮堤

津波の脅威を伝える公園や遺構

過去の津波の被害を記憶にとどめ、後
世への教訓にするため、村内には津波石
や決壊した防潮堤などが公園や震災遺構
として整備されています。地元住民によ
る津波体験の語り部プログラムも提供さ
れ、村民だけでなく、観光などで訪れた
人も防災を考える機会となっています。

島越ふれあい公園

東日本大震災の津波により流出した三
陸鉄道の島越駅の跡地に2017年に整備
されました。園内には流出を免れた宮沢
賢治の詩「発動機船 第二」の石碑、旧
駅舎のホームへ続いていた階段の一部が
展示され、被災当時の様子をとどめてい
ます。

羅賀ふれあい公園

津波による犠牲者の鎮魂の場、そして
住民のコミュニティ再生の暫いの場とし
て2018年に整備されました。園内には、
明治三陸大津波、昭和三陸大津波、東日
本大震災の慰霊碑や津波伝承の碑のほ
か、明治三陸大津波で打ち上げられた約
20トンの津波石があります。

震災遺構「明戸海岸防潮堤」

津波によって決壊した防潮堤が当時の
姿で保存され、津波の威力や惨状を体感
することができます。被災前後や決壊の
瞬間の写真を記載した解説板、見学路が
整備されており、次世代への震災体験の
伝承、住民や観光客の防災意識の高揚に
も活用が期待されています。

豊かな自然と共生し 暮らしに安らぎのある村をつくりま



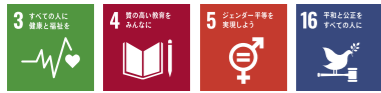
環境保全 / 生活環境 / エネルギー

優れた海岸景観や多面的機能を持つ山林原野、里地里山などの豊かな自然環境を保全します。生活排水の適正処理、リサイクル活動などごみの減量化と省エネルギーの推進による地球環境問題に対する意識の向上を図ります。水洗化の普及など、安全安心な環境に負荷をかけない快適環境づくりを進めます。



1 ゴミ拾い活動などを通じ、環境問題解決に取り組んでいます。 2 海岸景観を守るための管理・保護をしています。 3 山林の稀少な植物を適切に保全しています。

ふるさとに愛着を抱き 人間性豊かな人材を育てます



教育 / 青少年の健全育成 / 生涯学習・スポーツ
活動 / 芸術・文化 / 男女共同参画

幼小中連携により「子どもは地域の宝」として特性を生かした地域活動の中で社会性を育むとともに、地域との連携により産業や福祉、地域コミュニティ、スポーツ、文化、芸能など多様な社会活動を支え、国際化と情報化が進む中でもふるさとに誇りと愛着を持った人間性豊かな人材を育成するむらづくりを進めます。



1 スポーツの振興と、普及団体・学校の支援に努めます。 2 誰もが個性を發揮できる社会参加を支援します。 3 人間性豊かな人材の育成を図っています。

1

2



田野畑の
これから

むらづくりの体系と将来像



目指す将来像に向けて、6つの視点・構造的領域から村民の生き生きとした生活に繋げ、暮らし続けられる村の実現を目指します。

むらづくり
体系図

SDGs(持続可能な開発目標)

持続可能なむらづくり

むらづくりの重点施策
(田野畑村 まち・ひと・しごと創生総合戦略)

- 1 地域資源を活かした新たな雇用の創出
- 2 地域を支えるU・I・Jターンの促進
- 3 結婚・出産・子育て環境の支援
- 4 地域づくり・地域コミュニティの充実
- 5 広域圏及び多様な協力・連携の促進

[産業]

↑将来像
産業間連携とイノベーションにより地域資源が創造的に活用される、循環・共生型の働き続けられる村を目指します。

[ネットワーク]

交流
↑将来像
多様な交流を大切にし心ふれあう村を作ります。

交通・情報基盤
↑将来像
誰もが容易に移動や情報が得られるよう、連携・基盤の充実と機能発揮に努めます。

[生活]

↑将来像
安全で生き生きとした生活が営まれ、人々が集い笑顔あふれる村にします。

[地域]

環境
↑将来像
豊かな自然と共生し暮らしに安らぎのある村を作ります。

学習(ひとづくり)
↑将来像
ふるさとに愛着を抱き、人間性豊かな人材を育てます。

多様な交流を大切にし 心ふれあう村をつくります



地域コミュニティ / 都市との友好と交流

日常生活を送るうえで基本となっている地域コミュニティ活動を再生し、地域課題解決に向けた取り組みを支援するとともに、交流人口の拡大による地域の活性化を実現すべく積極的な情報発信に努め、世代間、地域間、市町村間、都市住民などとのつながりを大切に、心ふれあう交流のむらづくりを進めます。



1 地域の特性に合わせた自主的な活動を促進します。 2 村との縁を大切に交流の輪を守り育てていきます。 3 村外との交流事業を進めます。

産業間連携とイノベーションにより地域資源が創造的に活用される、循環・共生型の働き続けられる村を目指します



農業 / 林業 / 水産業 / 商工業 / 雇用・労働 / 観光

村の基幹である自然資源産業のさらなる振興と担い手の確保に努めるとともに、地域資源を活用した体験型観光と産業間連携の推進、機能性作目の増産、創造的起業により雇用の拡大と所得向上を図るなど、働き続けられるむらづくりを進めます。



1 安定的な生産・雇用を推進します。 2 体験型観光の充実による「観光の村」を目指します。 3 施設を活用し、新たな交流人口拡大を図ります。

誰もが容易に移動や情報を得られるよう 連携・基盤の充実と機能発揮に努めます



道路 / 公共交通 / 情報

地域経済や日常生活を支えるだけでなく、救急患者の安全輸送や災害時の緊急物資輸送の基盤となる道路網や情報基盤の整備促進とその適正な維持管理に努めるとともに、効率的で利便性が高く、安定した総合インフラサービスを提供し、連携・ネットワークが深まるむらづくりを進めます。



1 利便性の高い交通体系を構築します。 2 災害時などに輸送基盤となる道路の維持管理に努めます。 3 予約運行交通の向上を図ります。

安全で生き生きとした生活が営まれ、人々が集い笑顔あふれる村にします



保健 / 医療 / 福祉 / 消防・安全 / 定住促進

誰もが心身ともに健康で豊かな人生を送るために、保健・医療・福祉の連携をより一層強化し、健やかに産み育てるための子育て環境の充実を図るとともに、病気の早期発見・早期治療に努め、住み慣れた持続する地域で安心して安全に暮らすことができる笑顔あふれるむらづくりを進めます。



1 心と体の健康づくりを推進します。 2 安全・安心で強い地域社会をつくれます。 3 子どもを健やかに産み育てる環境をつくっています。

岩手県 下閉伊郡 田野畑村

■位置
面積 156km²
緯度 39度56分
経度 141度53分

■人口(令和5年1月現在)
3,061人(男 1,537人 女 1,524人)
世帯 1,359世帯

田野畑村マップ



■観光スポット



北山崎



机浜番屋群



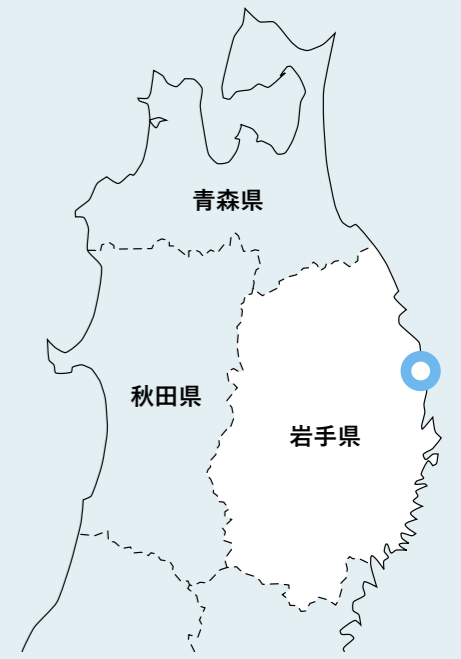
田野畑村民俗資料館



鵜の巣断崖



村公式マスコットキャラクター「タノくん」



■access




1盛岡IC—宮古盛岡横断道路(国道106号)—(1時間)—宮古—三陸沿岸道路(国道45号)—(40分)—田野畑中央IC

2青森IC—東北自動車道—(2時間10分)—久慈—三陸沿岸道路(国道45号)—(40分)—田野畑中央IC

3東京(川口中央IC)—東北自動車道—(3時間50分)—仙台—三陸沿岸道路(国道45号)—(4時間)—田野畑中央IC

1東京—東北新幹線—(2時間10分)—盛岡—JR山田線—(2時間10分)—宮古—三陸鉄道—(45分)—田野畑

2新函館北斗—北海道・東北新幹線—(2時間)—盛岡—JR山田線—(2時間10分)—宮古—三陸鉄道—(45分)—田野畑



海とともに
山とともに
風をつくる

田野畑村 村勢要覧



〒028-8407 岩手県下閉伊郡田野畑村田野畑143-1
TEL 0194-34-2111(代表) FAX 0194-34-2632
URL <https://www.vill.tanohata.iwate.jp/>